

# 再編・十二夜

作・小佐部明広

【登場人物】

ヴァイオラ

オーシーノ公爵……イリアの公爵。  
キューリオ……公爵に仕える紳士。

オリヴィア……伯爵家の娘。

マルヴォーリオ……オリヴィアの執事。

マライア……オリヴィアの侍女。

トービー……オリヴィアの叔父。

アンドルー……トービーの友人。

道化……オリヴィアの道化。

セバスチャン……ヴァイオラの双子の兄。

アントーニオ……セバスチャンの友人。

【演出メモ】

フラットなスペース。左右に11脚のイス。出番のない役者はイスに座って黒い布を被って待機。イスは舞台の道具として度々使う。召使い、役人、神父の役は、登場していない役者が布をかぶりながら演じる

第一幕

楽しくて派手なクラシック音楽。

幕が開く。

華やかな照明。

役者たちは踊っている。

第一場 公爵の宮殿

オーシーノ公爵が音楽を止める。

公爵 ええいやめろやめろ、音楽をとめろ！ お前たちも出て

け！ 早く出ていけ！

キューリオを残して、他の登場人物は去る。

キューリオ 公爵、どうなさったのですかそんなに怒りにな  
って。公爵がお招きになったんですよ。

公爵 気分が変わったんだよ気分が。いいか、俺は今すごくナ  
ーバスなんだ。この気持ちを紛らわしたいんだよ俺は。お前  
クラシックなんかで俺の気が紛れると思うか。

キューリオ ではなんだったら気が紛れるというんですか。  
公爵 なんてちよつと怒ってんだよ。怒りたいのは俺の方だ

よ、クラシックなんか聴かせやがって。俺はもつとポップな  
やつをききたいんだよ。ききたいというか歌いたい。俺はポ

ップなやつを歌いたいんだ。聴いてください、『つけまつけ  
る』。

キューリオ (音響席に) かけなくていいです。かけなくてい  
いですから。

公爵 なぜ邪魔をするんだ貴様。俺はぱちぱちつけまつけて気  
分も上を向かせたいんだよ！

キューリオ どうしたのですか公爵。最近の公爵はなにかおか  
しいですよ。

公爵 おかしい？ わかってるよ、自分でもおかしいことくら  
いわかつてる。でもどうしようもないだろ。お前なんかには  
俺の気持ちはわからん。

キューリオ いえ、そんなことはありません。わたくしは誰よ  
りも公爵のお気持ちがわかってるつもりです。

公爵 お前好きな人に告白したことあるか。  
キューリオ ……ええ、それはあります。

公爵 どうだった？  
キューリオ どうとは？

公爵 成功したのか失敗したのかってことだよ。  
キューリオ 一応、成功はしましたが。

公爵 しました「が」？ そのあとひどい別れ方をした？  
キューリオ いえ、そのまま結婚しまして、今の妻です。

公爵 それで？ 結婚はしたものの、今ではすっかり関係は冷  
え切って、相手の顔も見たくない？

キューリオ いえ、月に一度は旅行に行きますし、とても幸せ  
です。

公爵 てめえ殺すぞ！

キューリオ なぜですか！

公爵 好きな人に告白して付き合って結婚して月一で旅行してとても幸せですかそうですか！ だからお前に俺の気持ちはわからないと言ったんだ！

キューリオ ……。

公爵 よくも俺の目の前でそんなことが言えたな。いいか、俺は好きな人に告白してフラれてるんだぞ。しかも1回や2回じゃない。17回だぞ。お前17回も告白したことがあるか。空気をか。17回告白して、17回フラれたことがあるか。空気を読めよ！ 17回フラれた俺の前で幸せな話してんじゃねえよ！ 不幸なエピソードのひとつでも用意しておけよ！

キューリオ 申し訳ありません…。

公爵 もういい。お前と話すの飽きた。俺はシザリオと話す。シザリオ！ シザリオはいるか、シザリオ！

ヴァイオラ（男装している）が現れる。

ヴァイオラ はい、シザリオはここに。

公爵 シザリオ、お前、俺に仕えてどのくらいになる？

ヴァイオラ ちょうど3週間です。

公爵 3週間、まだたった3週間か。お前とはもう5年くらいは一緒にいる気がする。それだけ、お前は俺が心を開くことができる男だということだ。

ヴァイオラ ありがとうございます。

公爵 そこで、お前を誠実な男と見込んで頼みがある。オリヴィア姫のことは知っているな？

ヴァイオラ ええ、公爵が想いを寄せている方ですね。

公爵 そうだ。そのオリヴィア姫に俺の熱い想いを伝えてきてほしい。今まではこいつ（キューリオ）に頼んでいたが、こいつは使い物にならない。

キューリオ 申し訳ございません。

公爵 これが台本だ。

公爵、分厚い紙の束を床に投げ置く。

公爵 むこうにつくまでに全て覚えろ。一言一句間違わずにオリヴィア姫に伝えるんだ。

ヴァイオラ わかりました。

キューリオ いや、公爵、この量は無理だと思いますが。

公爵 黙れ役立たず！ シザリオはわかりましたと言ってるじゃないか！

キューリオ 申し訳ありません…。

ヴァイオラ しかし公爵、オリヴィア姫は兄君が病死してしまい、今は誰とも会う気分にはなれないときいています。

公爵 そこをなんとかするのがお前の役割だ。なんとしてもオリヴィア姫に俺の想いを伝えるんだ。なんならこいつ（キューリオ）も連れていって構わん。ええと…、お前名前なんだっけ？

キューリオ キューリオです。

公爵 そうそう、キューリオも連れて行って構わん。もし成功して俺とオリヴィア姫が結婚できることになれば、なんでもお前の願いを叶えてやる。頼んだぞシザリオ。

ヴァイオラ 必ずや成功させてみせます。

公爵は去る。

キューリオ シザーリオ、公爵はすっかりキミのことがお気に入りみたいだ。まだたった3週間だったのに。俺はもう8年も公爵にお仕えしてるってのにこんな扱いだよ。本当羨ましいよ。

ヴァイオラ いえいえ、そうは言っても公爵はキューリオさんを一番信頼してますよ。僕もキューリオさんが色々教えてくださったおかげで、すぐにこの環境にも慣れましたし。

キューリオ そう言ってもらえて嬉しいよ。

ヴァイオラ それで……、キューリオさんを信頼して、知ってもらいたいことがあるんです。

キューリオ ああ、なんだい？

ヴァイオラ 僕、女なんです。

キューリオ ……いやいやいや、なんだよ、何を言い出すかと思えば。

ヴァイオラ、ヒゲをとって、髪を下ろす。

ヴァイオラ 女なんです。

キューリオ ……本当に？

ヴァイオラ はい。本当の名前はヴァイオラといいます。

キューリオ マズいよ。公爵にバレたらタダじゃすまないよ。

ヴァイオラ そうなんです。だから公爵には黙っていてほしい

んです。

キューリオ いや、っていうかなんで？ なんで男のフリなんてしてるの？

ヴァイオラ それは、色々事情があるんですけど……、でも、私、公爵のことが好きなんです。

キューリオ ……はあ？

ヴァイオラ それで、公爵のそばでお仕えしたいと思っ

て。

キューリオ キミ大胆だねえ。

ヴァイオラ だから、私、オリヴィア姫が羨ましいんです。告白されるのが私だったらどんなに嬉しいことか。

キューリオ ああ、うん、そうだね。

ヴァイオラ ……お願いします。公爵には黙っていてください。

キューリオ うん、それはわかったけど……。あのさ、ひとつきいていい。

ヴァイオラ はい。

キューリオ なんで俺にうちあてくれたの？

ヴァイオラ それは、キューリオさんは信頼できると思ったので。

キューリオ そっか……。

ヴァイオラ 私もひとつきいていいですか。

キューリオ うん。

ヴァイオラ お名前、キューリオさんであってますよね？

キューリオ ……うん、そう、キューリオ。え、もう3週間一緒だよ？

ヴァイオラ すみません、私名前を覚えるのが苦手で。

キューリオ ああ、そうなんだ。

ヴァイオラ それじゃあ行きましょう。トゥーリオさん！

キューリオ ……キューリオね！

ヴァイオラ 行きましょう、キューリオさん！

ヴァイオラとキューリオ、去る。

## 第二場 オリヴィアの邸

オリヴィアとマルヴォーリオが現れる。

オリヴィア (泣いている) あーはーはーはーん、お兄様あ、お

兄様あ、

マルヴォーリオ お嬢様、そろそろお泣きになるのはやめまし

よう。せつかくの美しいお顔が台無しです。

オリヴィア だって、だって、お兄様が死んでしまったのよ。

マルヴォーリオ ほうらお嬢様、いないいないばあ、いないい

ないばあ、

オリヴィア (泣いている) はーんはーんはーんはーんはーん、

マルヴォーリオ ああまったくどうしたもんか。

道化が現れる。

道化 どうしましたオリヴィアさん。

オリヴィア 誰？

道化 お久しぶりです。道化ですよ。オリヴィアさんの道化。

オリヴィア 道化ー！ (嬉しそうに道化に近づいて) ハイハ

イハイハイハイッ！

オリヴィア、道化をボクシングで叩きのめす。

オリヴィア 今まで何してたのよ！

道化 (口に溜まった血を軽く吐き出して) まったくなんですか、

僕はサンドバックじゃありませんぜ。

オリヴィア なにしてたってきいてるのよ！ 私を慰めるの

があなたの役目でしょうよ！ どうして私が必要とするとき

に限ってこないのよ！

道化 まあまあオリヴィアさん、そんなに怒ると体に悪いです

よ。いったん落ち着きましょう。カルシウムを取りましょ

う。

オリヴィア とってるわよ！ 毎日牛乳飲んでるわよ！ もう

いいわ、マルヴォーリオ、このバカをどこかへ連れていつ

て。

マルヴォーリオ ははっ。(道化を連れていこうとする)

道化 おいマルヴォーリオさん、きこえなかったのか。早くオ

リヴィアさんを連れていけ。

マルヴォーリオ なに？

オリヴィア 道化、私はバカを連れていけと言ったのよ。

道化 だから僕はオリヴィアさんを連れていけと言ったん

です。

マルヴオーリオ 貴様、お嬢様がバカだというのか。

道化 バカをバカと言ってなにがいけないんです？

マルヴオーリオ 貴様、それ以上いうとタダじゃすまんぞ。

道化 いやいや、僕は本当のことを言ったままでですよ。なんなら証明しましょうか、オリヴィアさんがバカだったこと。

オリヴィア 私の何がバカだったのかしら。

道化 なおオリヴィアさん、なんで泣いているんだい。

オリヴィア 悲しいから泣いていたのよ。

道化 なにがそんなに悲しいんだい？

オリヴィア お兄様が亡くなってしまったからよ。

道化 なるほど、兄上は地獄に落ちたことだ。

オリヴィア 天国よ。お兄様が地獄に落ちるわけないわ。

道化 だからお前はバカなんだよ。お兄様が天国へいったとい

うならどうして悲しむ必要があるんだ、あん？ おいマルヴ

オーリオ、このバカを連れていけ。

オリヴィア (少し機嫌を直して) どうかしらマルヴオーリオ。

マルヴオーリオ 私としてはただ呆れるばかりです。このよう

なバカをお側に置いておくなんて、私はお嬢様の考えがわか

りかねます。

オリヴィア あなたも冗談がわからない人ねマルヴオーリオ。

こいつは頭がいいバカなのよ、ただのバカじゃなくてね。

(道化に) いいわ、あなたのことは許してあげる。もう少し

この家にもいいわ。

道化 オリヴィアさんがどうしてもついていうんなら仕方ありませんね。もう少しこの家にいることにしますよ。

マライアが現れる。

マライア オリヴィア様、若い方がお見えになって、オリヴィ

ア様にお会いしたいと言っているんですが。

オリヴィア また公爵の使いかしら。

マライア ええ、おそらく。かつこいい感じの青年と、あと、

いつもの微妙な使いが一人。

マルヴオーリオ 今お嬢様は、誰かにお会いするような気分

はない。帰らせろ。

マライア それが、何を言っても帰らないの一点張りで。

ヴァイオラとキューリオが乱入してくる。

ヴァイオラ (ドアを蹴破る) バン！ 失礼しますよ！

マルヴオーリオ 何者だ！

ヴァイオラ オーシーノ公爵の使いのものです。埒があかない

ので強行突破させていただきました。

キューリオ すみません、本当すみません。

マルヴオーリオ おい、誰か！ 誰かいないか！ こいつらを

追い出せ！

オリヴィア 待ってマルヴオーリオ。(ヴァイオラに) あなた面

白い人ね。お名前は？

ヴァイオラ シザーリオと申します。

オリヴィア シザーリオね。いいわ。(マルヴオーリオとマライア

に) さがつていいわ。

マルヴオーリオ はい？ いえしかし、

オリヴィア さがりなさい。少しこの人とお話がしたいわ。  
マルヴォーリオ ……わかりました。(マライアと道化に) 行くぞ。

マライア ええ。

マルヴォーリオとマライア、道化は去る。

ヴァイオラ あなたがオリヴィア姫ですか。

オリヴィア そうよ。

キューリオ 度々失礼させていただいてます、私はキューリオです。

オリヴィア ええ、あなたは帰っていいわ。

キューリオ はい？ いえしかし、こいつはまだまだ若いし、何か失礼があつてもいけませんから。

ヴァイオラ 大丈夫。僕はもう一人前の大人ですよ。帰ってください、チャーチルさん。

キューリオ キューリオね。

オリヴィア 二人つきりでなきや、私にも話さないわよ。  
キューリオ わかりました。(ヴァイオラに) いいか、もしなにかあつたら、

ヴァイオラ 早く帰ってください。

キューリオ おう。

キューリオは去る。

ヴァイオラ それでは、オーシーノ公爵のお言葉をお伝えいた

します。

オリヴィア いいわよいわよ聞き飽きたわ。私はあなたとお話したいの。公爵の言葉はききたくないわ。

ヴァイオラ ひどいなあ、覚えるのにすごく時間がかかったんですよ。こんな辞書みたいな台本。お供のチャーチルに手伝わってもらって、必死で覚えたんですよ。

オリヴィア あら、辞書みたいな台本を全部覚えられるなんてすごいじゃない。あなた役者の才能があるわよ。

ヴァイオラ いえ、世の中には男役を演じる女もいるくらいです。それに比べれば大したことはありませんよ。

オリヴィア それは台本通りの言葉？

ヴァイオラ いいえ、そうでした、私の目的は公爵の台本を一言一句間違わずに言うことです。

オリヴィア 公爵の言葉は聞きたくないわ。

ヴァイオラ きいてくださいよ、せっかく覚えたんですから！ ひどすぎますよ。せっかく台本の台詞全部覚えたのに、脚本家が「やっぱりうまくいかないので台本一から書き直しませう」っていうくらいひどいですよ。

オリヴィア それは確かにひどいけれど。

ヴァイオラ ですからとにかくきいてください。いいですか、いきますよ。(息を深く吸って) それではきいてください。「大好きだぜオリヴィア。作、オーシーノ公爵。オリヴィアや、ああオリヴィアや、オリヴィアや。俺はもう、オリヴィア姫が大好きさ。とつてもとつても大好きさ。イリリアーいや世界一、いや宇宙で一番大好きさ。いっぱいいっぱい大好きさ。全人類、みんながお前の敵だとしても、俺はお前の味方



だぜ。カッコ笑い。オリヴィアや、ああオリヴィアや、オリヴィアや……」

オリヴィア もうやめて！

ヴァイオラ 待つてくださいよ。まだ200ページのうち1ページ目ですよ。

オリヴィア センスがなさすぎるのよ！

ヴァイオラ それは僕じゃなくて公爵におっしゃってください！

オリヴィア なんなのよ、なんで微妙に七五調なのよ！ ねえ、その台本覚えていて疑問に思わなかったの？ こんな

じゃ私のこと落とせっこないって思わなかったの？

ヴァイオラ そりゃあ思いましたよ！ 思ったに決まっている

じゃありませんか！ でも仕方ないじゃないですか。命令なんですから。公爵の命令なんですから！

オリヴィア そりゃあ、私だって公爵に慕われてるって知っ

て、そりゃあ悪い気はしなかったわよ。っていうかちよつと嬉しかったわよ。でも、こんな下手くそな台詞きいてオツケ

ー出せないわよ。わかるでしょ。あなただって例え女だとして、例え公爵のことが好きだったとしても、こんなのきかさ

れたら、やっぱりやめとこうかなって思うでしょ？

ヴァイオラ 僕は、僕はそれでもオツケーかなって思うかもしれ

れないですけど。

オリヴィア オツケーじゃないわよ。あのね、私貴族の娘なのよ。伯爵家の娘なのよ。プライドつてもものがあるじゃない。

落とされるときはオシヤレで気の利いた言葉で落とされたいじゃない！

ヴァイオラ でも、そうは言っても公爵ですよ。身分も高いし、とてもご立派な方ですよ。なのにそういうことをおっしゃるのは、ちよつと贅沢なんじゃないかなあ。

オリヴィア それに、あのあいつよ！ チャーチルだかトーマスだかいう微妙な使い！ あいつ今の台詞、微妙に節とか、

ダンスとかつけてくるのよ、もうミュージカルよ！ 劇団四季よ！ そんなの17回も続いてみなさいよ。もうPTSD

になるわよ！

ヴァイオラ それは申し訳ありません。うちのトーマスが失礼をいたしました。

オリヴィア ほんとよ、ほんと。(少し笑って) ほんとひどいのよ、あのトーマスっていう使い。すごいソウルフルなダンス

で、

ヴァイオラ (オリヴィアと一緒に少し笑う)

オリヴィア まだあなたの朗読の方がマシだった。

ヴァイオラ それは、トーマスがひどすぎるんですよ。オリヴィア でももう帰って、私疲れたわ。

ヴァイオラ それは困りますよ。あなたの「うんいいよー。」という返事がもらえるまで僕は帰れないんですから。

オリヴィア 公爵にこう伝えて。あなたを愛することはできません。もう二度と使いをよこさないでくださいって。まあ、もしあなたが個人的に私に会いたいというなら、そのときは会ってあげてもいいわ。もう今日はあなたと話すことはな

にもないわ。さようなら。

ヴァイオラ また来ますよ。

ヴァイオラは去る。

少しして、オリヴィアはそわそわして歩き回ってなんだか落ち着かない様子。

オリヴィア マルヴォーリオ！ マライア！

マルヴォーリオ、マライアが現れる。

その間に、オリヴィアは自分の身につけていた指輪を外す。

マルヴォーリオ お呼びでしょうか。

オリヴィア マルヴォーリオ、さっきのシザーリオという男、今すぐ追いかけてちょうだい。この指輪を無理やり置いていったの。

マルヴォーリオ (指輪を見て) いつもお嬢様が身につけている指輪にそっくりですな。

オリヴィア きつとあのストーカーまがいの公爵がわざと同じものを用意したんだわ、気持ち悪い。とにかくこんな気持ち悪いもの受け取れないわ。私はあの人の妻にはなりません。その理由を知りたいなら、さっきのシザーリオという男を使いによこせと伝えてちょうだい。いそいでね、マルヴォーリオ。

マルヴォーリオ はい。

マルヴォーリオは去る。

オリヴィア マライア！ (マライアにすがりつく)

マライア どうしたんですかオリヴィア様。

オリヴィア どうしましたよ、私、自分でも何をしているのかわからないの。ただ、もう一度、あのシザーリオという方に会いたい、そういう気がするの。これってどうして？

マライア かつこいいからじゃないでしょうか。

オリヴィア そうよね、かつこよかったわよね？ あの微妙な使いより断然かつこよかったわよね？

マライア そりやそうですよ。

オリヴィア そつかあ、私面食いだからなあ。かつこいい男に弱いんだよなあ。

マライア お嬢様、いったん落ち着きましょう。一晚寝れば落ち着きますから。さあ、ご自分の部屋まで戻りましょう。

音楽。

オリヴィアとマライアは去る。

ヴァイオラとキューリオが現れ、その後ろから

マルヴォーリオが追ってくる。

マルヴォーリオは指輪を投げつけ、何か言い残して去る。

ヴァイオラは指輪を拾い上げる。

ヴァイオラとキューリオは去る。

## 第二幕

### 第一場 海岸

夕方。海岸の波の音。

セバスチャンとアントーニオが現れる。

セバスチャンは男装しているヴァイオラにそっくりである。

セバスチャン アントーニオさん、もう行っちゃうの？

アントーニオ ああ、いつまでもこのイリリアにいるわけには  
いかないんだ。

セバスチャン でも、じゃあ俺もついていっていいかな？

アントーニオ いや、ダメだ。

セバスチャン どうして？ 俺アントーニオさんにはすごい感  
謝してるんだ。アントーニオさんがいなかったら俺も死んで  
たと思うんだ。あの荒波の中、俺のことかかえてさ、岸まで  
たどり着いたんだもん。俺の双子の妹はきつと溺れ死んじや  
ったけど、俺はアントーニオさんのおかげで助かったんだ  
よ。俺友情感じてんだよアントーニオさん。

アントーニオ 他人を巻き込むわけにはいかないんだ。

セバスチャン 巻き込む？ 巻き込むってどういうこと？

アントーニオ このイリリアには俺の敵がたくさんいるんだ。

俺、海賊をやっててね、ここのオーシーノ公爵の艦隊と一戦  
交えたことがあって、そこで多少派手にやってしまっただけ。

なるべく早く気づかれずにこのイリリアから抜け出す方法を  
探さなきゃいけないんだ。

セバスチャン そういうことなら俺も協力するよ。俺、ここに

は何回か来たことあるから、なにか力になれると思うんだ。

俺、セバスチャンっていうんだ。お父さんは、もう死んじや  
ったんだけど、たぶんむこうじゃそれなりに有名だからきい  
たことあるんじゃないかな。メッサリーンのセバスチャンつ  
ていうんだけど。

アントーニオ メッサリーン？ あのセバスチャン様のご子息  
でいらつしやいましたか！ そうとは知らずに、大変失礼い  
たしました。

セバスチャン いやいいんだよそんなにかしこまらなくて、友  
達だろ？ 頭上げてくれよ。なあ、お願いだよ、一緒につれ  
てってくれよ。

アントーニオ セバスチャン様のご子息のお願いとあれば、断  
るわけにはいきません。

セバスチャン 本当？ ありがとう。それじゃあ行こうよ。あ  
んまり人目につかなさそうな道とか案内するから。

アントーニオ ええ、お供いたします。

セバスチャン よし、行こう。

セバスチャンとアントーニオは去る。

### 第二場 オリヴィアの邸

ノリノリな音楽。

音楽に乗りながらトビー、アンドルー、道化が現れる。

全員酔っている。ひとしきり音楽に合わせて踊ったり歌ったりする。マライアが現れる。

マライア (酒を持ってきながら) トービーさん、このくらいにしときますか？ またマルヴォーリオさんに怒られますよ。

トービー 知ったことかあんなジジイ。好きなだけ俺たち怒鳴りつけて血圧上がって、ブツ倒れて死にやがりやいいんだ！

一同、爆笑。好き勝手マルヴォーリオの悪口を言う。

マルヴォーリオが現れる。音楽を止める。

マルヴォーリオ なんの騒ぎだこれは。

トービー おうよくきたなジジイ。一杯飲んでくか？

マルヴォーリオ あなたがたは一体どういうつもりですか。お嬢様が兄上の死を嘆いて一日中お泣きになっているというのに、あなたがたにはわきまえというものがありませんか。

トービー 十分わきまえてるぜ身分ならな。俺はオリヴィアの叔父だ。血族だ。伯爵様の弟サマサマだ！ 伯爵様の留守を任されてるのはこの俺だぞ。貴様のような老いぼれジジイよりはるかに偉いんだ、ざまあみる！

アンドルー そして俺はその伯爵様の弟サマサマの友人サマサマサマだ！ お前より、トービーさんよりもはるかに偉いんだ、ざまあみる！

マルヴォーリオ トービー殿、わたくしはお嬢様の執事ですぞ。わたくしの言葉はお嬢様の言葉と思いなさい。

トービー だからどうした。オリヴィアの言葉なんぞ屁でもねえわ。

マルヴォーリオ もしこれ以上騒ぎ立てるならお嬢様はあなたがた全員この邸から追放しますからな！ 覚悟しておくんですな！

トービー 覚悟するのは貴様の方だ。伯爵様の弟サマサマに無礼を働いた報いは必ず受けてもらうぞ。

マルヴォーリオ マライア、お前もこれ以上こいつらの騒ぎに付き合うようなら、タダではすまないと思え、わかったな。

マルヴォーリオは去る。

トービーは酒を飲む。アンドルーも飲む。

トービー チツ、あいつのせいで酒がマズくなっちゃった。

アンドルー まったくだ、サツポロソフトみたいな味がするよ。

トービー おいマライア、なにかあいつに一泡吹かせてやる方法はないか。

アンドルー 僕が思うに、人間のままじゃ一泡吹けないと思うんだ。だからまずあいつにカニになってもらわないといけないと思うんだ。

マライア そうですね、いい方法がないことはありません。

トービー 本当か？

マライア あの人って、すぐくナルシストじゃないですか。もう老いぼれなのに、自分は世界一イケメンで、モテモテだと思ってるんですよ。

アンドルー それは早く違うつて教えてあげたほうがいいよ、  
かわいそうだから。

マライア しかもここだけの話、あの人、オリヴィア様に惚れ  
てるんですよ。

アンドルー それは困るよ、これ以上ライバルが増えたら勝ち  
目がないよ。

マライア そこで、偽のラブレターをあいつの通り道に落とし  
ておくんです。私、オリヴィア様とそっくりの字が書けるん  
です。

トービー なるほど。

アンドルー どういうこと？ わかりやすく説明してくれよ。

マライア そのラブレターでマルヴオーリオに指示を出すん  
です。オリヴィア様に嫌われるような行動を取るようにね。

アンドルー なるほど！

マライア トービーさんたちは物陰に隠れて、最高のエンター  
テイメントを楽しんでください。明日の昼過ぎ、ヤツが日課  
の散歩で中庭を通るときです。

トービー ああわかった。

マライア それじゃあ今日はおやすみなさい。期待してくだ  
さいよ。

マライアは去る。

アンドルー いい女だな、あのマライアって女。

トービー ああ、あいつ俺に惚れてんだぜ。

アンドルー そうなんだ、僕は惚れられてないみたいで安心し

たよ。僕がオリヴィアちゃんに求婚した時に嫉妬されると  
後々面倒だからね。

トービー その通りだ。

アンドルー でも大丈夫かなあ。オーシーノ公爵もオリヴィア  
ちゃんに求婚してるらしいじゃないか。僕じゃあ勝ち目がな  
いと思うんだ。

トービー アンドルーくん、自信を持つんだ。いいか。オリヴ  
ィアは自分よりも上のものに興味がないんだ。身分も知性も  
面白さも全て自分より下でなきゃいかん。

アンドルー そうか、ありがとうトービーさん。自信が湧いて  
きたよ。

トービー よし、それでいい。さあ、これから俺の部屋で2次  
会だ。あのジジイの無様な姿が見られるのを祝して乾杯だ！  
アンドルー 仕方ないな付き合ってるよ。

トービーとアンドルー、道化は去る。

### 第三場 公爵の宮殿

次の日の昼。

公爵が現れる。

公爵 シザーリオ！ シザーリオはいるか？

ヴァイオラとキューリオが現れる。

ヴァイオラ はい、シザーリオはここに。

公爵 昨日はよくやった。オリヴィア姫からいい返事はきけなかったものの、そいつ（キユーリオ）よりは手応えがある感じだ。今日もまたオリヴィア姫のところに行ってもらいたいと思う。

ヴァイオラ はい、わかりました。

公爵 十何回断られたくらいでは俺はあきらめない。必ずオリヴィア姫を俺の妻にしてみせる。俺のオリヴィア姫に対する愛情は宇宙よりも広いんだ。シザーリオよ、お前は恋をしたことがあるか。お前には俺の苦しみがわかってもらえるだろうか。

ヴァイオラ ええ、わかります、あなた様のおかげで。

公爵 どんな女だ？

ヴァイオラ あなた様のようなお顔立ちで。

公爵 そりゃあお前にはもったいない。こんな顔の女よりもっと美しい女を選んだほうがいい。歳は？

ヴァイオラ ちょうどあなた様くらいの年ごろです。

公爵 そりゃあぶいぶん年上だ。もっと若いのを選んだほうがいい。年上はダメだ、すぐ尻に敷かれる。年下の女は男に忠誠を誓ってくれるからな。

ヴァイオラ 僕もそう思います。

公爵 さあ、それではオリヴィア姫のところに向かってくれ。そして俺のオリヴィア姫に対する愛は宇宙よりも広いと伝えてくれ。

ヴァイオラ もしあなたを愛することはできませんと言われたら？

ら？

公爵 そのような返事はきかん。

ヴァイオラ きかないわけにはいきません。例えば、公爵がオリヴィア姫を愛するのと同じくらい、どこかの女が公爵のことを愛しているとします。その女が公爵に愛を拒絶されたとしても、そのような返事をきかないわけにはいかないでしょう。

公爵 女の愛などたかだか知れている。俺のオリヴィア姫に対する愛とは比にならない。

ヴァイオラ そんなことはありません。

公爵 なぜ男であるお前にそんなことが言える？

ヴァイオラ 僕の父には娘がいました。その娘はある男に深い愛を抱いていました。

公爵 それで、その恋はどうなった？

ヴァイオラ どうにもなっていない。その男はほかの女性を愛しているのです。父の娘は、未だに男に愛を伝えられず、苦しみに耐えております。

公爵 それは気の毒だ。お前が慰めてやってくれ。

ヴァイオラ ええ、そうします。

公爵 シザーリオ、俺はときどき思う。お前は俺にすごく忠実だ。そして俺のことを愛してくれている、しもべとしてな。

だから、お前が女であればよかったと、ときどきそう思うんだ。もしお前が女だったら結婚してもいいくらいだ。自分を愛してくれる人を愛せるのは幸せなことだからな。……なぜ俺は、自分を愛してくれない女を好きになっちゃったんだろう。

ヴァイオラ ……僕は、そろそろオリヴィア姫のところに向かおうと思います。

公爵 ああ、そうだな。頼んだぞシザリオ。俺は絶対にあきらめない。絶対にな。

公爵は去る。

キューリオ ……皮肉だね、愛する人の愛の言葉を、ほかの女性に伝えるに行くなんて。

ヴァイオラ そうですね、キュウリさん。

キューリオ 惜しい。キューリ、おね。キューリオ。

ヴァイオラ 父に似てるんです。

キューリオ 誰が？

ヴァイオラ 公爵。

キューリオ ああ、キミのお父さん？

ヴァイオラ もう死んでしまったんですけど。

キューリオ ああ、そうなんだ。

ヴァイオラ 馬から落ちたんです。父らしくない死に方でした。今まで一度も落ちたことなんかなかったのに。とても、尊敬する人でした。

キューリオ ……そうか。

ヴァイオラ ……私、この人間じゃないんです。

キューリオ ……？

ヴァイオラ 覚えてますか？ 3週間ほど前に嵐があったのを。

キューリオ ああ、あったあった。ひどい嵐だったね。どこか

の船も難破したってきいたよ。

ヴァイオラ その船に乗っていたんです、私。

キューリオ ……そうだったんだ。

ヴァイオラ セバスチャンという、私によく似た双子の兄も一緒に乗っていました。たぶん荒波にもまれて死んでしまったと思います。母は私を産んですぐに死んだみたいで、だから、私ひとりぼっちなんです。みんな死んでしまつて…。

キューリオ ……。

ヴァイオラ 私も、兄と一緒に死んでいれば、最近よく思ううんです。

キューリオ あのさあ、

ヴァイオラ ……？

キューリオ 俺のこと頼ってもいから。いや、俺奥さんいるし、恋愛的なあれとかはもちろんダメだけど、相談とか、いつでも乗るし。

ヴァイオラ いえ、大丈夫です。

キューリオ ……そうか。

ヴァイオラ それじゃあ行きましょう、ブロッコリーさん！

キューリオ キューリオね！

ヴァイオラ 行きましょう、キューリオさん！

ヴァイオラとキューリオは去る。

#### 第四場 オリヴィアの邸の庭園

トービーとアンドルーが現れる。  
アンドルーが偽のラブレターを道の上に置く。

アンドルー　ここでいいかなあ。

トービー　ああ、上出来だ。お前もやればできるじゃないか。  
アンドルー　成功するかなあ。

トービー　もちろん、マライアが周到な計画を練っている。来たぞ。マライアも一緒だ。

二人は物陰に隠れる。

マルヴォーリオ　まったくお前たちは朝から手も動かさずに、お喋りばかりしている。

マライア　すみませんマルヴォーリオさん、あの、本当に今朝私たちがしていた噂話、内容はきいていなかったんですね。

マルヴォーリオ　まあ、まあそうだなあ。  
マライア　ならいいんです。マルヴォーリオさんには秘密にしておかないといけないことですから。

マルヴォーリオ　だがその、お嬢様のお名前と、私の名前と、惚れているとかどうとかいうことはきこえてきた気がするんだが。

マライア　まさか。オリヴィア様がマルヴォーリオさんに惚れているなんてことはありませんよ。もしそうだとしても、絶対にマルヴォーリオさんに知られちゃいけないんです。なにせ秘密の恋なので……。もしマルヴォーリオさんに盗み聞きさ

れたなんてオリヴィア様に知られたら、私たちオリヴィア様に怒られてしまいますからね。

マルヴォーリオ　まあ、それはそうだ。

マライア　そうだマルヴォーリオさん。お嬢様がラブレターをこのあたりに落としてしまったみたいなのですが、もしこの辺りにラブレターが落ちていたとしても、絶対に拾ったり、封筒を開けたり、中身を見たりしないでください。お願いしますよ。

マルヴォーリオ　ああ、もちろん、そんなお嬢様に失礼なこと  
はせんよ。

マライア　それじゃあ、マルヴォーリオさん。私は先に行きますので。

マライアは去る。

マルヴォーリオ　……お嬢様が誰かに惚れている……？ 私か、私なのか？ いや待て。順当に行けばオーシーノ公爵か。いやいやお嬢様は何度も公爵の求婚を断っておられる。ということは、あのシザーリオとかいう小僧……？ いやいや、お嬢様があんな小僧に惚れるはずは……、気になる。気になるぞ。誰なんだ。お嬢様が惚れている相手。ぐぬぬ、お嬢様が落としたラブレターが見つけれれば、わかるかもしれん。しかし、そんな都合よくラブレターがあった！

マルヴォーリオはラブレターを拾う。



アンドルー 畏にかかった！

マルヴォーリオ、周囲を確認しながらラブレターを開封する。中の手紙を開く。

マルヴォーリオ 間違いない。お嬢様の字だ。(すぐ読もうとするが、一度深呼吸して、手紙をたたむ) 落ち着け、落ち着くん  
だ。なにをしているんだマルヴォーリオ。お嬢様のラブレターだぞこれは。私が勝手に見てもいいようなものではない。それに、それにもし私の名前が書いてなかったらどうするマルヴォーリオ？ ほかの男の名前が書いてあったらどうするマルヴォーリオ？ 読まない方がいいのだこんなものは。

(手紙を封筒にしまい、下の場所に置き、去ろうとする)

トビー なにをしてるんだ、グダグダ考えずにとつとと読みやがれ。

マルヴォーリオ (去ろうとするが踏みとどまる。前に進もうとするが足が動かない) く、足が、足が動かない。くうう、くううう！ ダメだ、動かない。私の足がラブレターを見ると叫んでいる。くうう、くううう！ (そのまま後ろ歩きでラブレターのところに戻る) ダメだ、ダメだマルヴォーリオ。く、くそう、手が、手が勝手に、

※無料版はここまでです。ご覧くださりありがとうございます。全編はクラアク芸術堂の販売ページ(左のURL)から購入できます。ありがとうございます。

<http://www.clark-artcompany.com/public>

あとがき

以前から、シェイクスピアをやりたいと思っていたのですが、台本は面白いはずなのになぜか上演されているものを観るといまひとつ面白くない……。ということばかりでした。それはやっぱり、シェイクスピアの台本に忠実にやろうと、日本人が頑張って外国文化の外国人を演じていること、「シェイクスピアは高尚なものだ」という思い込み、そして日本人にはピンと来ないコジャレた言い回しが原因だと思うのです。

でも当時の人は、シェイクスピアを笑ったりハラハラできるエンターテイメントとして観ていたはずなので、当時の人々が観ていたように、現代の日本人も笑ったりハラハラしたりしてシェイクスピアを観ることができはずだ、という思いから、台詞は全て書き換え、現代の日本人が観てもすんなり理解できるようにしました。

書いてみると、シェイクスピアの劇曲は本当にコントみたいなもので、ひたすら登場人物が勘違いしていつて噛み合わない、という単純にして強力な作りになっています。そしてそれがわかると、シェイクスピアの戯曲に書かれているそれ以上のもの、生きるのことの悲しさとかおかしさなんていうものも味わうことができるようになります。

この作品によって、シェイクスピアへの抵抗感がなくなれば、幸いです。

2014年9月9日 小佐部明広

《上演記録》

劇団アトリエ第13回公演 名作劇場4 『再編・十二夜』

【キャスト】

ヴァイオラ ——— 原彩弓（おかめの三角フランスコ）  
オーシーノ公爵 ——— 小山佳祐（劇団アトリエ）  
キューリオ ——— 能登英輔（Mrs）  
オリヴィア ——— 飛世早哉香  
マルヴォーリオ ——— 城島イケル（劇団にれ）  
マライア ——— 柴田知佳（劇団アトリエ）  
トビー ——— 伊達昌俊（劇団アトリエ）  
アンドルー ——— 遠藤洋平  
道化 ——— 有田哲（劇団アトリエ）  
セバスチャン ——— 上松遼平  
アントーニオ ——— 西村翔太（劇団千年王国）

【スタッフ】

作・演出 小佐部明広  
照明 岩ヲ脩一（Region Xross Inc）  
音響 小佐部明広  
衣装 佐々木青  
メイク chitoo. 阿部文香（北星学園大学演劇サークル）  
小道具 阿部文香（北星学園大学演劇サークル）  
宣伝美術 小佐部明広  
制作 細谷史奈（劇団千年王国／劇団宴夢） 工藤亜希子  
柳田紗耶未（北海学園大学演劇研究会） 小林翔平

【日程】

2014年6月28日（土） 14時／18時

【場所】

サンピエザ劇場

【料金】

一般前売1700円（当日1900円）  
25歳以下前売1200円（当日1400円）  
高校生以下前売500円（当日700円）

※実際の上演内容と一部異なる場合があります。ご了承ください。

2014年9月12日 第1刷制作  
2017年10月4日 第2刷制作

《『再編・十二夜』の上演について》

「一般前売入場料2000円未満」または「公演予算100万円以下」の場合は、脚本使用料は無料です。それ以外の場合は、協議の上、総予算の3%程度を脚本使用料とします。上演のお問い合わせはクラーク芸術堂企画運営委員会まで。

【クラーク芸術堂企画運営委員会】

clark.artcompany@gmail.com